

2026年3月期 決算説明会

2026年5月19日



ソーダニッカ株式会社



1. 2026年3月期 決算概況 P 3
2. 資本コストや株価を意識した経営 P14

1. 2026年3月期 決算概況

【経済・市場環境】

個人消費の回復やサービス関連消費の堅調さを背景として、
非製造業を中心に好調な景況感が見られ、経済は緩やかな回復基調

- 国内製造業については、米国関税政策の影響を受け、機械関連業種等で生産活動が弱い動きとなるなど、年間を通じて回復と弱含みを繰り返し、一進一退の動きとなった。
- 当社に関係の深い化学品においては、一部製品の値上がり等もあり当社業績の後押しとなった。

【当社の対応】

中期経営計画「Go forward STAGE3」の3年目として、
企業価値向上に向け、外部環境の変化に即した取組を推進

- 収益基盤の強化 および 電子デバイス分野・日用品受託ビジネス 等、成長領域のビジネス深耕
- 既存投資設備の稼働率向上、物流機能の強化等、企業価値向上に向けた事業投資を推進
- 政策保有株式の売却等の資本効率向上策を継続

決算サマリー



- 売上高/売上総利益 : エレクトロニクス業界向け・官公庁向け無機薬品の受注好調、包装関連機器の販売等が貢献
- 営業利益 : 事業活動による収益の増加に伴い増益
- 当期純利益 : 営業利益の増加に伴い、5期連続で過去最高益を更新（特別利益は前期比減少）

(単位：百万円)	2025/3月期	2026/3月期	増減額	増減率
売上高	65,146	66,692	+ 1,546	+2.4%
売上総利益	9,071	9,617	+ 546	+6.0%
販売費及び一般管理費	6,961	7,135	+ 174	+2.5%
営業利益	2,109	2,482	+373	+17.6%
経常利益	2,477	2,934	+457	+18.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	2,195	2,362	+167	+7.6%
1株当たり当期純利益（円）	96.51	103.62	+7.11	+7.4%

通期業績予想との比較

- 売上高 : 包装関連機器の計上期ずれ、海外子会社の案件進捗遅れ等により当初想定から下振れ
- 営業利益 : 化学品市況の後押し等があり当初想定から上振れ
- 経常利益/当期純利益 : 営業利益の伸長に伴い増加

(単位：百万円)	2026/3月期 通期業績予想 (対前年)	2026/3月期 通期業績 (対前年)	増減額	増減率
売上高	70,500 (8.2%)	66,692 (2.4%)	▲3,808	▲5.4%
営業利益	2,340 (10.9%)	2,482 (17.6%)	+142	+6.1%
経常利益	2,670 (7.8%)	2,934 (18.4%)	+264	+9.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	2,300 (4.8%)	2,362 (7.6%)	+62	+2.7%

セグメント状況：化学品事業

(単位：百万円)	2025/3月期	2026/3月期	増減額	増減率
売上高	43,402	44,319	+917	+2.1%
セグメント利益	3,752	3,942	+190	+5.1%
利益率	8.6%	8.9%	-	-

■ ソーダ関連薬品は前期並み

酸性ソーダはエレクトロニクス業界向けが取引増加の一方、化学業界向けは取引減少。塩酸はエレクトロニクス業界向けが好調で取引増加。

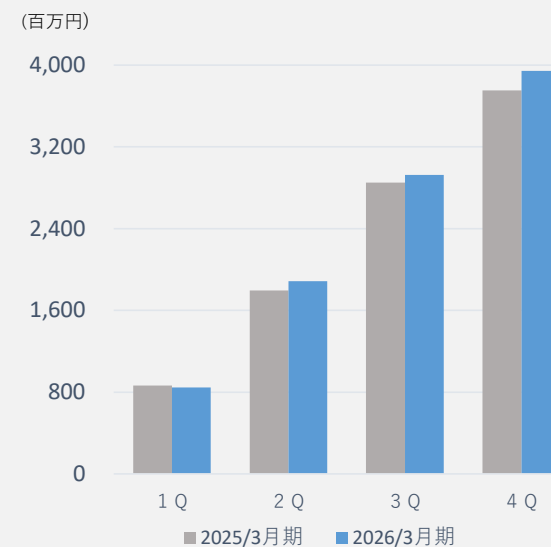
■ その他の無機薬品は好調

アルミニウム化合物・鉄化合物が、自治体向け水処理剤の新規受注等により取引増加。

■ その他の商品群は好調

日用品関連商品が受託案件の伸長により取引増加。

【四半期ごとのセグメント利益推移】



セグメント状況：機能材事業

(単位：百万円)	2025/3月期	2026/3月期	増減額	増減率
売上高	13,714	14,490	+ 776	+5.7%
セグメント利益	807	831	+24	+3.0%
利益率	5.9%	5.7%	-	-

■ 包装関連商品は好調

包装関連機器が海外向け案件等の受注により取引増加。
ポリプロピレンフィルム・複合フィルムは食品包装向けに販売好調で取引増加。

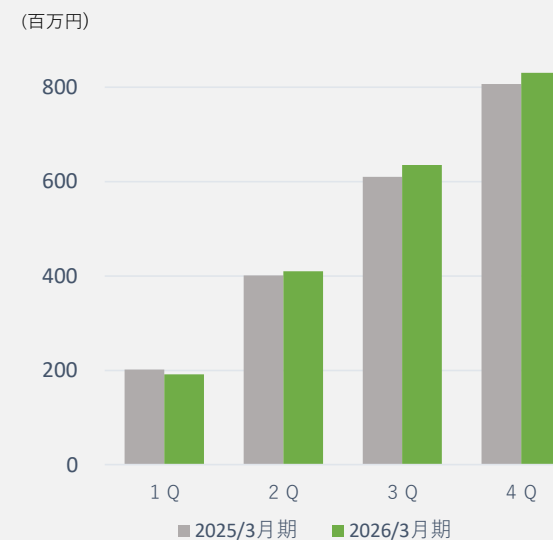
■ 合成樹脂関連商品は好調

工業用製品は機械用部品の受注伸長、物流容器は一時的な需要増加により取引増加。

■ 設備・工事・産業材料はやや低調

機械器具設置工事が前期比での案件減少により取引減少。

【四半期ごとのセグメント利益推移】



セグメント状況：その他事業

(単位：百万円)	2025/3月期	2026/3月期	増減額	増減率
売上高	8,029	7,882	▲147	▲1.8%
セグメント利益	157	244	+87	+55.5%
利益率	2.0%	3.1%	-	-

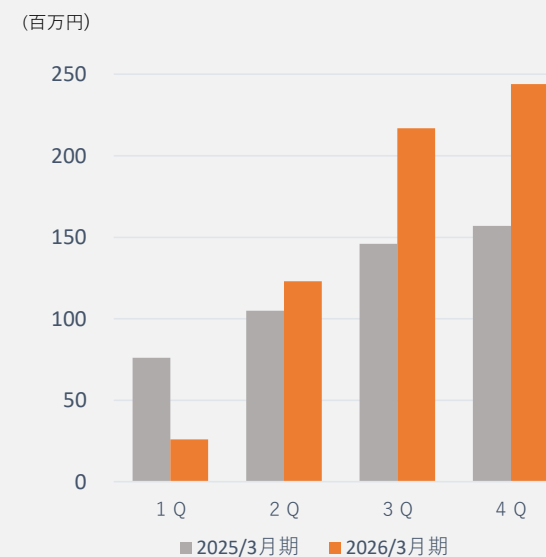
■ 国内連結子会社

株式会社日本包装における新工場の稼働向上や、モリス株式会社で縫製雑貨の取引が好調に推移したこと等により増益となった。

■ 海外連結子会社

米国関税政策等の影響により競争環境が変化し、新規案件の進捗が難航した。

【四半期ごとのセグメント利益推移】



連結損益計算書



(単位：百万円)	2025/3月期	2026/3月期	増減額 [※]
売上高	65,146	66,692	+1,546 (+2.4%)
売上総利益	9,071	9,617	+546
販売費及び一般管理費	6,961	7,135	+174
営業利益	2,109	2,482	+373 (+17.7%)
営業外収益	483	544	+61
営業外費用	116	92	△24
経常利益	2,477	2,934	457 (+18.4%)
特別利益	850	655	△195
特別損失	12	70	+58
税引前当期純利益	3,314	3,520	+206
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,195	2,362	+167 (+7.6%)
1株当り当期純利益 (円)	96.51	103.62	+7.11

注) 増減額の()内のパーセンテージは、前年同期比の増減率を表す

連結貸借対照表

(単位：百万円)	2025/3月期 期末	2026/3月期 期末	増減額
流動資産	51,247	52,296	+1,049
現金及び預金	7,231	8,116	+885
受取手形、売掛金及び契約資産	41,608	41,810	+202
商品及び製品	1,442	1,429	▲13
その他	966	940	▲26
固定資産	21,952	25,529	+3,577
有形固定資産	7,135	※① 6,711	▲424
無形固定資産	263	327	+64
投資その他の資産	14,553	※② 18,490	+3,937
資産合計	73,200	77,826	+4,626
流動負債	39,390	38,801	▲589
支払手形及び買掛金	33,351	33,191	▲160
短期借入金	3,165	2,661	▲504
その他	2,872	2,947	+75
固定負債	4,274	※③ 5,249	+975
負債合計	43,664	44,051	+387
株主資本合計	22,880	24,242	+1,362
その他の包括利益累計額	6,655	※④ 9,532	+2,877
純資産合計	29,535	33,774	+4,239
負債純資産合計	73,200	77,826	+4,626

【変動要因】

資産の部は+4,626

- 有形固定資産 (※①)
⇒ 減価償却や固定資産売却のため減少
- 投資その他の資産 (※②)
⇒ 主に投資有価証券の時価上昇のため増加

負債の部は+387

- 固定負債 (※③)
⇒ 繰延税金負債の増加

純資産の部は+4,239

- その他の包括利益累計額 (※④)
⇒ その他有価証券評価差額金の増加

2027年3月期 通期業績予想



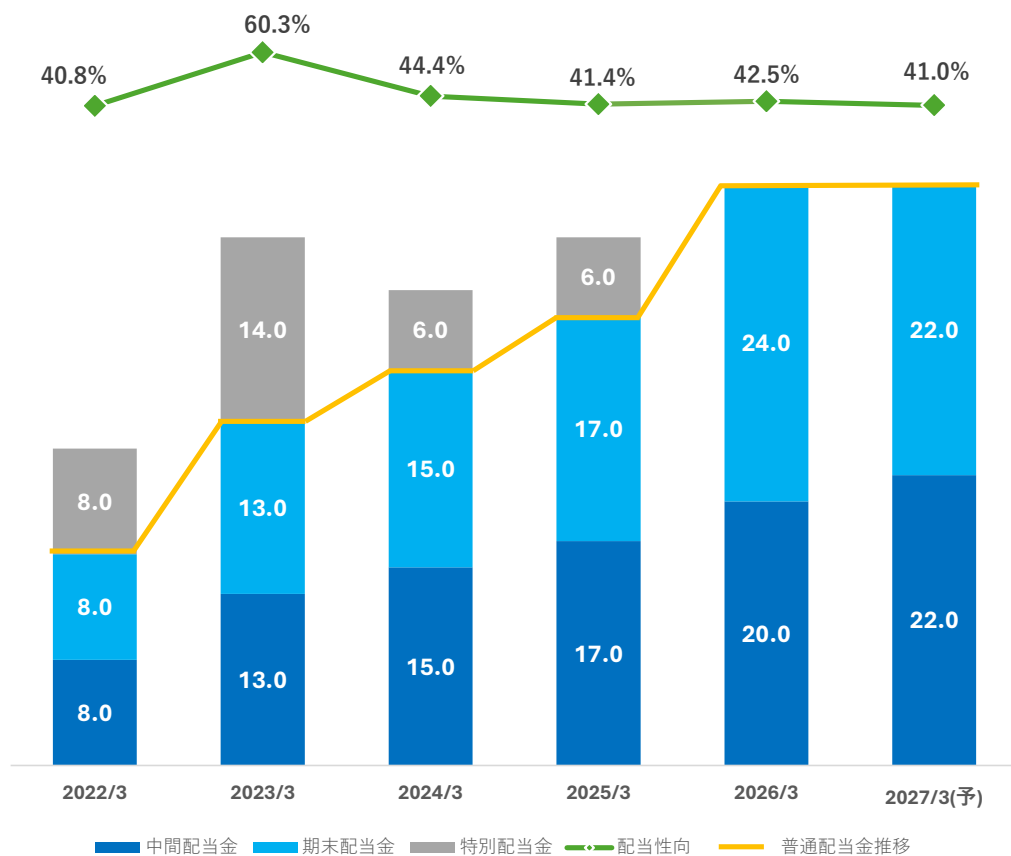
- 経済は、内需の堅調さによる景気の下支えが期待される一方、当面は中東情勢に起因する原材料不足や原油高の影響が懸念される。
- 当社としては、中期経営計画の各施策が進捗することで増収増益を予想。
既存投資設備の稼働率・収益性の向上に注力するとともに、外部環境の変化に即した事業の推進や資本効率の向上策を推進する。

(単位：百万円)	2026/3月期 通期業績	2027/3月期 通期予想	増減額	増減率
売上高	66,692	70,100	3,408	+5.1%
営業利益	2,482	2,610	128	+5.2%
経常利益	2,934	3,110	176	+6.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,362	2,450	88	+3.7%
1株当たり 当期純利益 (円)	103.62	107.34	3.72	+3.6%

※現時点で入手可能な情報に基づき算出したものであり、今後の中東情勢等の外部環境変化が業績に影響を及ぼす場合は速やかに開示いたします。

株主還元の様況

1株当たり配当金の推移



【2026年3月期 配当状況】

	普通配当		特別配当	年間計
	中間	期末	期末	
期初予想	20円	20円	—	40円
期末発表	20円	24円	—	44円

【2027年3月期 配当予想】

- 2027年3月期は普通配当として、
中間/期末 共に 22円、年間 44円の配当を予想

【株主還元方針】

- 中期経営計画「Go forward STAGE3」の期間中
配当性向40%以上の定常化

2. 資本コストや株価を意識した経営

当社では、自社の 株主資本コストを6.58%、WACCを5.70%としており、
そのうえで、基本方針を以下の通りとしております。

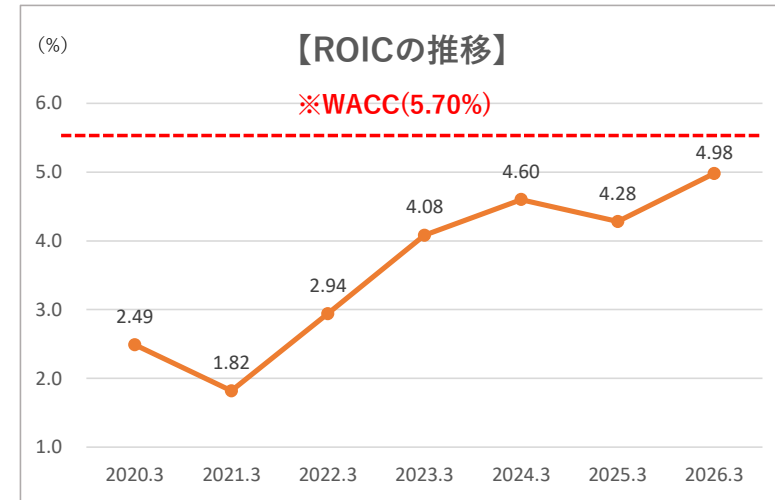
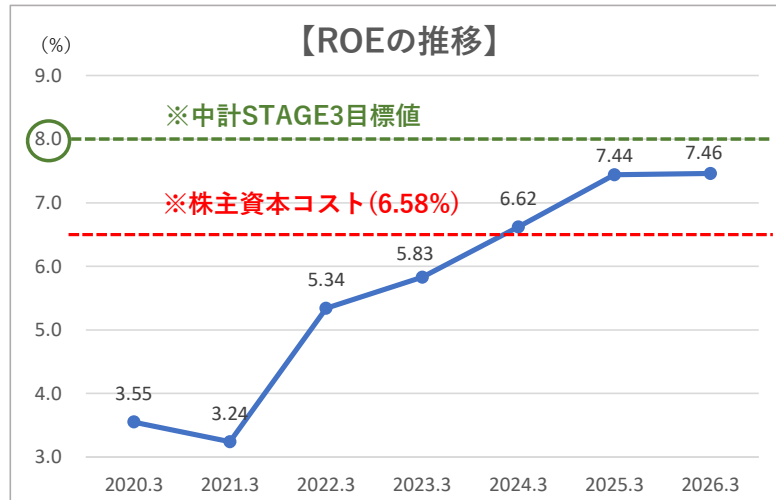
【基本方針】

株主資本コストを上回るROEを重要指標とし、
中期経営計画「Go forward STAGE3」を実行・達成することで企業価値向上を目指す。

課 題	施 策	中期 経営 計画 の 実行	実施時期・目標
<ul style="list-style-type: none"> ① 利益の拡大 ② 資本効率の向上 ③ 成長性 ④ 将来性 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成長戦略の実行 ・ 最適自己資本の追求 ・ 政策保有株式の縮減 ・ 株主還元 ・ 成長投資 ・ 株主、投資家との対話 		<p>2027年3月期末までに 株主資本コストを上回る ROE達成を目指すとともに、 企業価値の向上を目指す。</p>

現状分析①：資本収益性

【ROEとROICの推移】



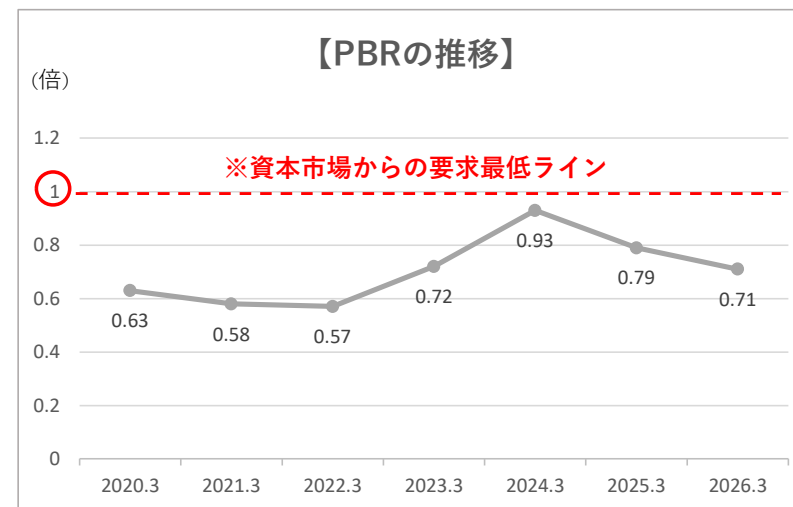
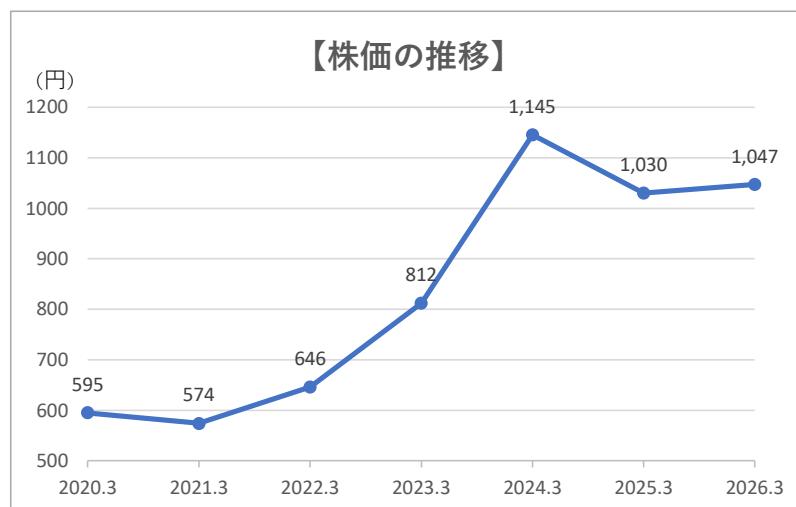
中計施策の実行や最適自己資本の追求などが奏功し、

- ・ 当社のROEは対応する株主資本コストを上回っている。
- ・ 一方、ROICは改善傾向にあるもののWACCを下回っている状況。

現状分析②：市場評価

【株価とPBRの推移】

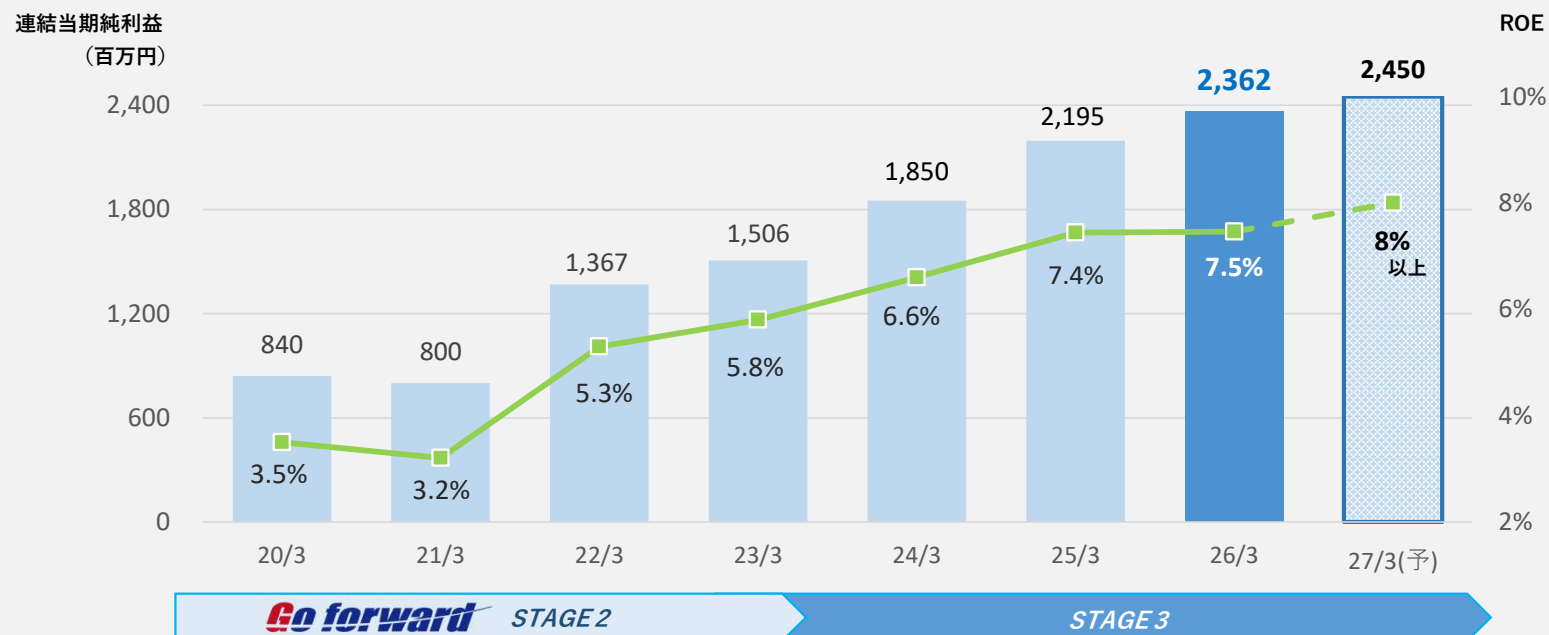
	2020.3	2021.3	2022.3	2023.3	2024.3	2025.3	2026.3
株価（円）	595	574	646	812	1,145	1,030	1,047
PBR（倍）	0.63	0.58	0.57	0.72	0.93	0.79	0.71



- ・ 当社のPBRは改善傾向にあるものの、26年3月期末は純資産の増加により下降。
- ・ 引続きPBR1.0倍以上を目指し各種取組を推進する。

成長戦略：中期経営計画「Go forward STAGE3」の推進

STAGE 3 最終年度 目標値 (2027年3月期)	連結当期純利益 24億円以上 ※	ROE 8%以上	配当性向 40%以上
--------------------------------	----------------------------	--------------------	----------------------



※ 27年3月期当期純利益目標は、当初目標：20億円から上方修正(2025年5月8日発表)

政策保有株式の縮減・株主還元の充実

取組①

政策保有株式の縮減

□ 縮減計画

中計STAGE3 累計：約40億円

□ 中計STAGE3 縮減状況

	縮減銘柄数 [※]	売却価額 (百万円)
2023年度	8	266
2024年度	6	1,059
2025年度	8	739
合計	22	2,064

※縮減銘柄数は、年度間の重複銘柄を除く

取組②

株主還元

□ 方針と取組み

- 配当性向40%以上の定常化
- 2020/3月期より継続的に40%以上の配当を実施
- 株主優待制度の拡充
(5単元(500株)以上保有の株主様にも拡充)

QUOカード

◇500株以上1,000株未満
一律1,000円分を贈呈

拡充

◇1,000株以上
一律3,000円分を贈呈

プレミアム優待倶楽部



保有株数に応じて
優待ポイントを贈呈※

※毎年3月31日現在の株主名簿に記載された1,000株以上保有の株主様が対象

成長投資の実施

成長投資① 広島大野ケミカルセンターの増強

物流機能の更なる強化を目的に各種設備を増強。
2024年4月から稼働。（投資額：約12億円）

投資効果

中国地方の需要獲得と
利益の拡大に寄与



成長投資② (株)日本包装の新工場建設

生産能力の増強ため、新工場を岡山に建設。
最新鋭の設備を導入。2024年10月から稼働。
（投資額：約43億円）

投資効果

印刷 加工機能の強化
による販売拡大



成長投資③ 富士物流倉庫の建設

関東～中部地方の物流拠点として新たに倉庫を建設。
2026年4月から運用開始。（投資額：約5億円）

投資効果

- 本業の収益拡大への寄与
- 首都圏に近い立地を活かした新たな需要獲得
- 在庫集約化によるコスト低減、
管理システムによる保管効率の向上
- 「サステナブルな倉庫づくり」をコンセプトとし、
環境負荷低減や地域住民の災害時活用が可能に

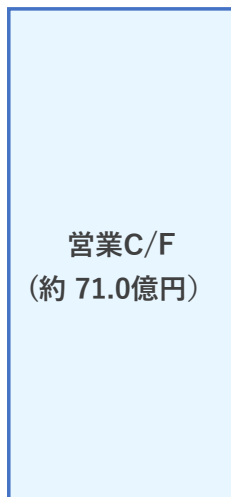


キャッシュ・アロケーション

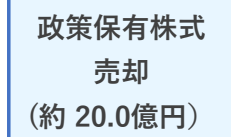
24/3月期～26/3月期 累計

キャッシュ・イン
(累計：約90億円)

進捗度
101%

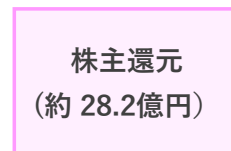


進捗度
50%

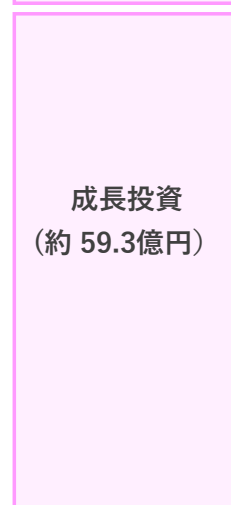


キャッシュ・アウト
(累計：約90億円)

進捗度
56～94%

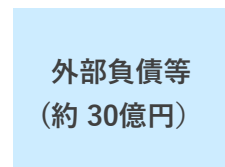
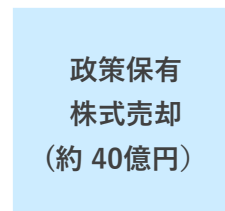


進捗度
66～85%

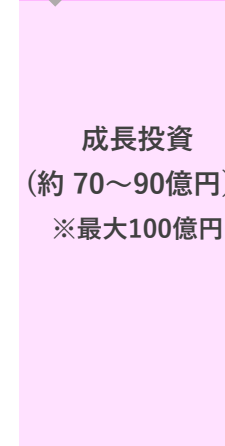
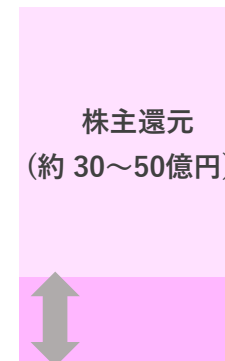


27/3月期 想定

キャッシュ・イン
(累計：約140億円)



キャッシュ・アウト
(累計：約100～150億円)



株主・投資家との対話の状況

□ 機関投資家とのIR・SR面談件数

2023年度：16件
2024年度：6件
2025年度：7件



面談の内容/投資家からの意見は4半期ごとにマネジメントへ報告

□ 投資家向け説明会の実施

2023年度：4回（機関投資家、個人投資家向け各2回）
2024年度：4回（機関投資家、個人投資家向け各2回）
2025年度：4回（機関投資家、個人投資家向け各2回）

□ 機関投資家（国内・海外）への情報発信

シェアードリサーチ社によるアナリストレポートをIRサイトに掲載

[ソーダニッカ株式会社 | Shared Research](#)



投資家からの質問・意見の事例



株主優待制度の基準株式保有数1,000株以上は厳しい。もう少し下げてほしい。（個人投資家）

→ 5単元（500株）以上保有の株主様にも優待制度を拡充



成長投資枠の100億円の内、残りの金額の用途はどのように考えているか？（機関投資家）

→ 中計STAGE3の残りの期間については、物流拠点の拡張・設備増強を中心に検討しております。



円安や物価高の影響について教えてほしい。（個人投資家）

→ 円安については、当社は国内取引を中心としているため為替変動の直接的な影響は限定的です。物価高については、資源・材料価格の上昇による商品価格改定もあり、当社グループの業績に対してやや追い風となっています。

今後に向けた課題と対応

	2026年3月期	2027年3月期 業績予想	2027年3月期 【中計目標】	当社の 株主資本コスト
連結当期純利益 (百万円)	2,362	2,450	2,400以上	—
ROE	7.5%	—	8%以上	6.58%

- 2026年3月期の連結当期純利益は、中期経営計画の目標に向けて順調に伸長。
- ROEは、当社の株主資本コストを上回っているが、中計目標の到達に向けて引き続き取り組む。課題として、投資有価証券の時価上昇に伴う純資産の増加等がある。
- 引き続き、政策保有株式の縮減を進めるとともに、中期経営計画の推進による更なる利益の拡大を目指すことにより、ROEの向上を図る。

2026/3月期 決算概況

- ✓ 無機薬品の受注好調や化学品市況の安定、包装関連機器の販売等が貢献し、前期比で増収増益を達成。
- ✓ 化学品セグメントは、エレクトロニクス業界向けや自治体向け薬品の需要伸長等により増益。
- ✓ 機能材セグメントは、包装関連機器の案件受注や、食品包装フィルムの好調等により増益。

資本コストや 株価を意識し た経営

- ✓ 26年3月期時点で、ROEは株主資本コストを上回る水準。
- ✓ PBRは改善が続いているものの、1倍以上を目指し、各種取組を推進中。
- ✓ 中計最終年度に当たり、ROE 8%以上という目標に向けて、利益の更なる拡大・資本効率の向上に引き続き取り組む。

ご清聴いただき、誠にありがとうございました。



ソーダニッカ株式会社



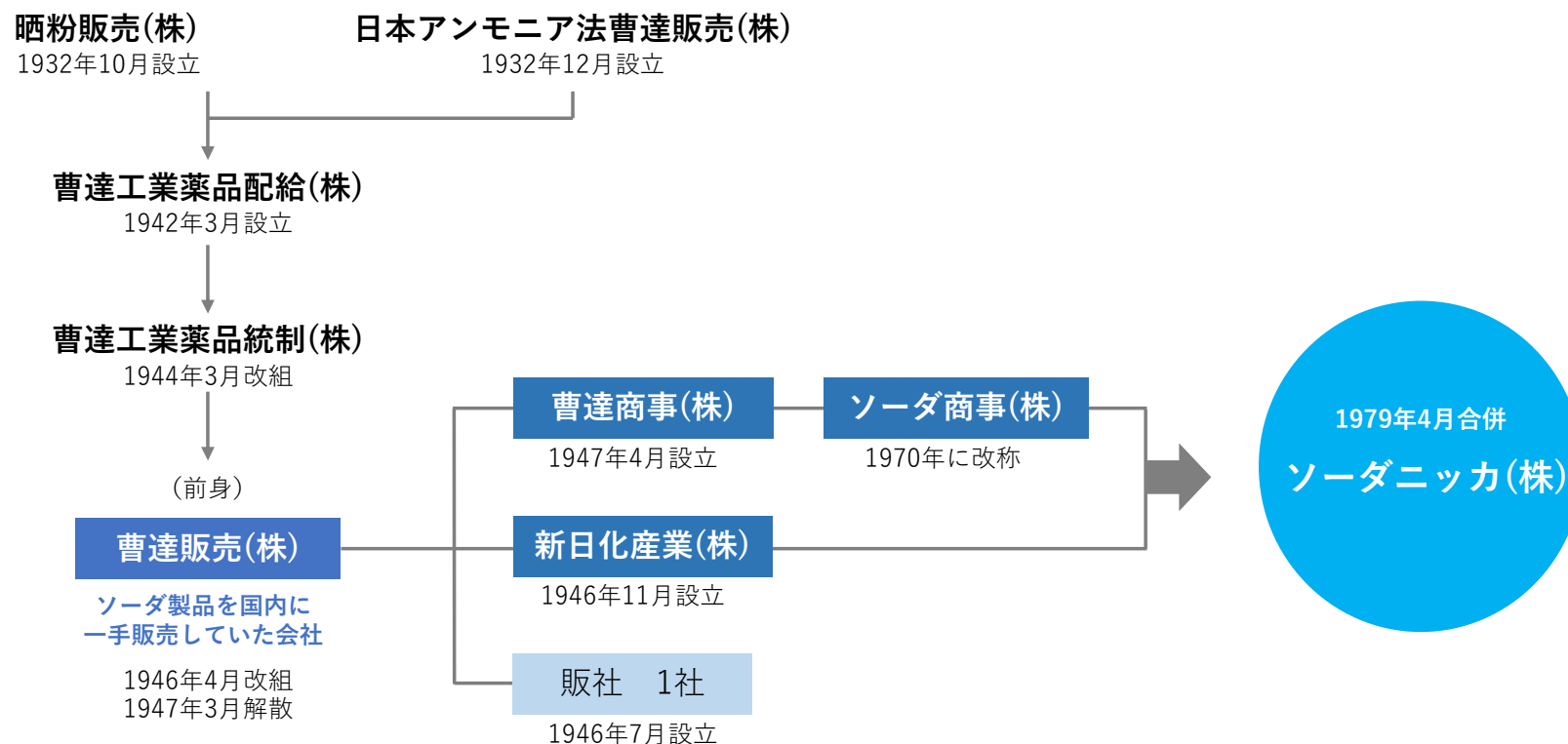
< 参考資料 >

幅広い仕入先と顧客層を持つ、化学品・機能製品の専門商社

2026年3月31日現在

会 社 名	:	ソーダニッカ株式会社 SODA NIKKA CO., LTD.
創 立 年 月	:	1947年4月
本 社	:	東京都中央区日本橋三丁目6番2号 日本橋フロント5階
代 表 者	:	代表取締役 社長執行役員 目崎 龍二
資 本 金	:	37億6,250万円
売 上 高	:	666億92百万円（2026年3月期）
従 業 員 数	:	連結397名 / 単体301名
事 業 拠 点	:	国内15拠点（本社1、支社1、支店7、営業所2、ケミカルセンター4）、海外2拠点
関 係 会 社	:	国内5社、海外3社
上 場 取 引 所	:	東京証券取引所プライム市場（証券コード：8158）
株 式	:	発行済株式総数 22,968,000株

戦後より化学品の安定供給に貢献し、わが国の産業発展に寄与



基礎化学品を主軸に、3つのセグメントで事業を展開



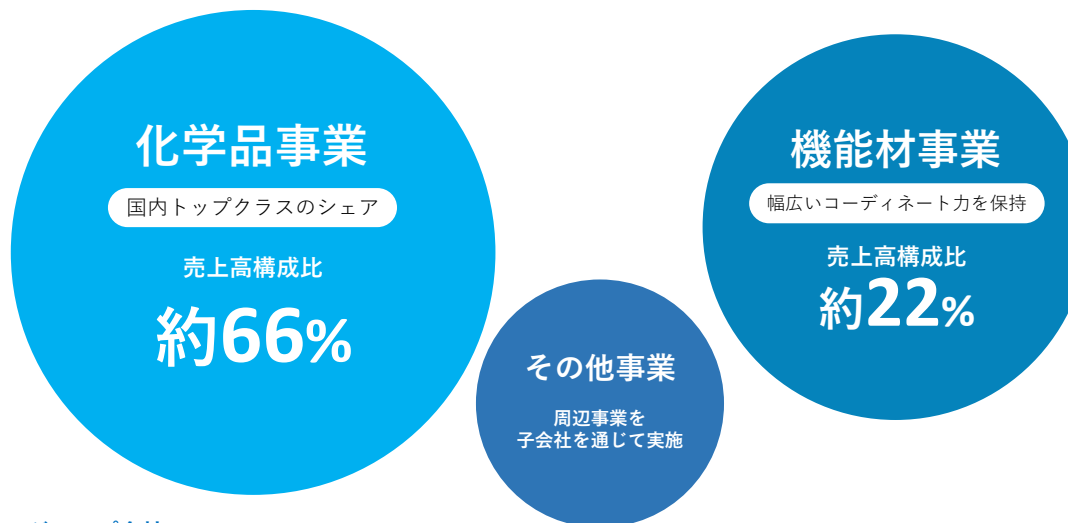
無機薬品



有機薬品



紙パルプ関連薬品



合成樹脂



包装関連製品



設備・機械

■グループ会社

ソーダニッカビジネスサポート株式会社	主として当社からの受託業務及び・運送業
株式会社日本包装	主として関西地区及び中国地区における包装資材の加工販売
モリス株式会社	主としてベトナムからの商品輸入及びベトナムに進出する企業のコンサルティング業務
株式会社日進	主として中部・関西・北陸地区における包装資材・機器等の販売
株式会社野津商店	主として山陰地区の工業薬品販売、各食料品の原料資材の販売
曹達日化商貿(上海)有限公司	主として中国における工業薬品類や、機能材等の販売、日本への輸出版売
PT. SODA NIKKA INDONESIA	主としてインドネシアにおける工業薬品類や機能材等の販売、日本への輸出版売
SODA NIKKA VIETNAM CO., LTD	主としてベトナムにおける包装関連商品や工業薬品類の販売、日本への輸出版売

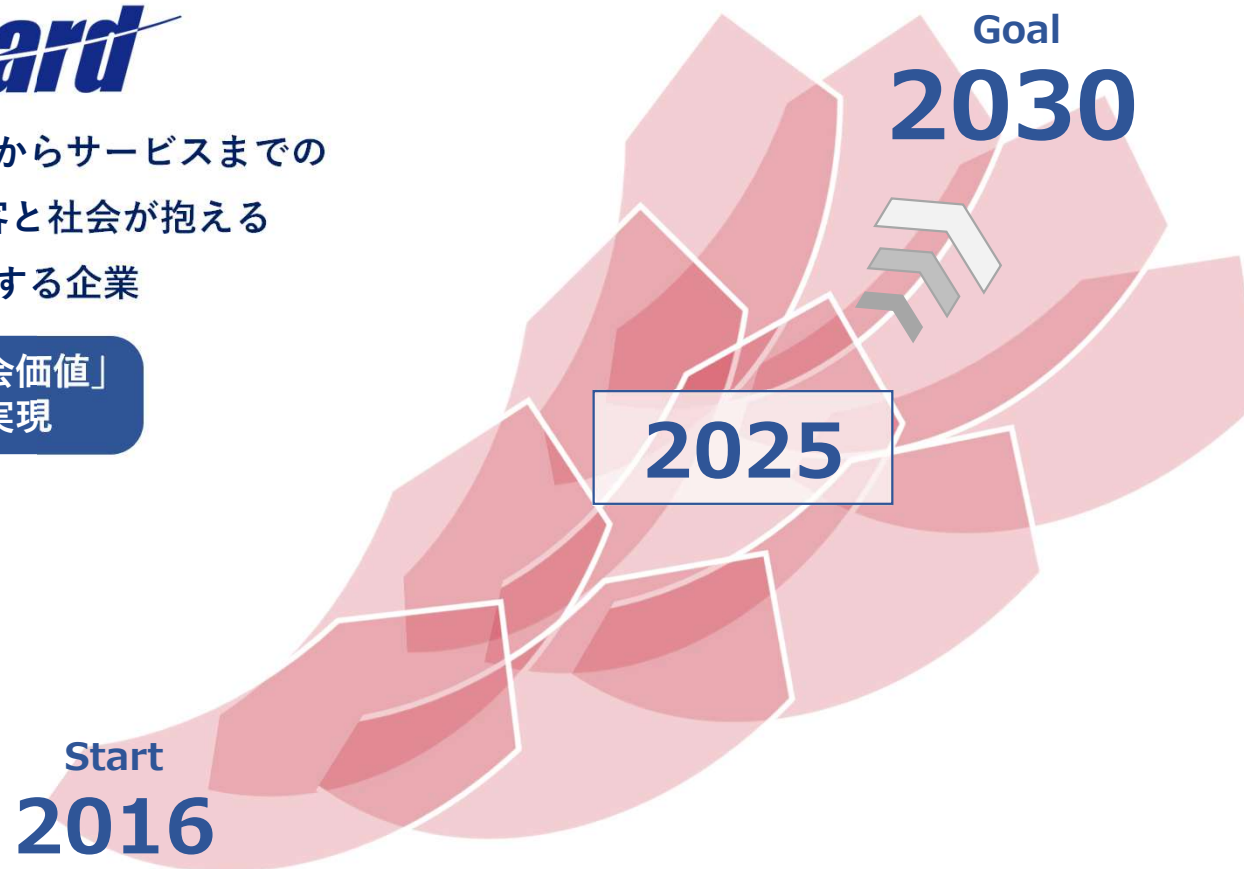
Go forward

化学・機能製品に関する商品からサービスまでの

あらゆる機能を備え、顧客と社会が抱える

課題の解決に貢献する企業

「事業価値」 「社会価値」
双方の向上の実現



中期経営計画“Go forward STAGE3”



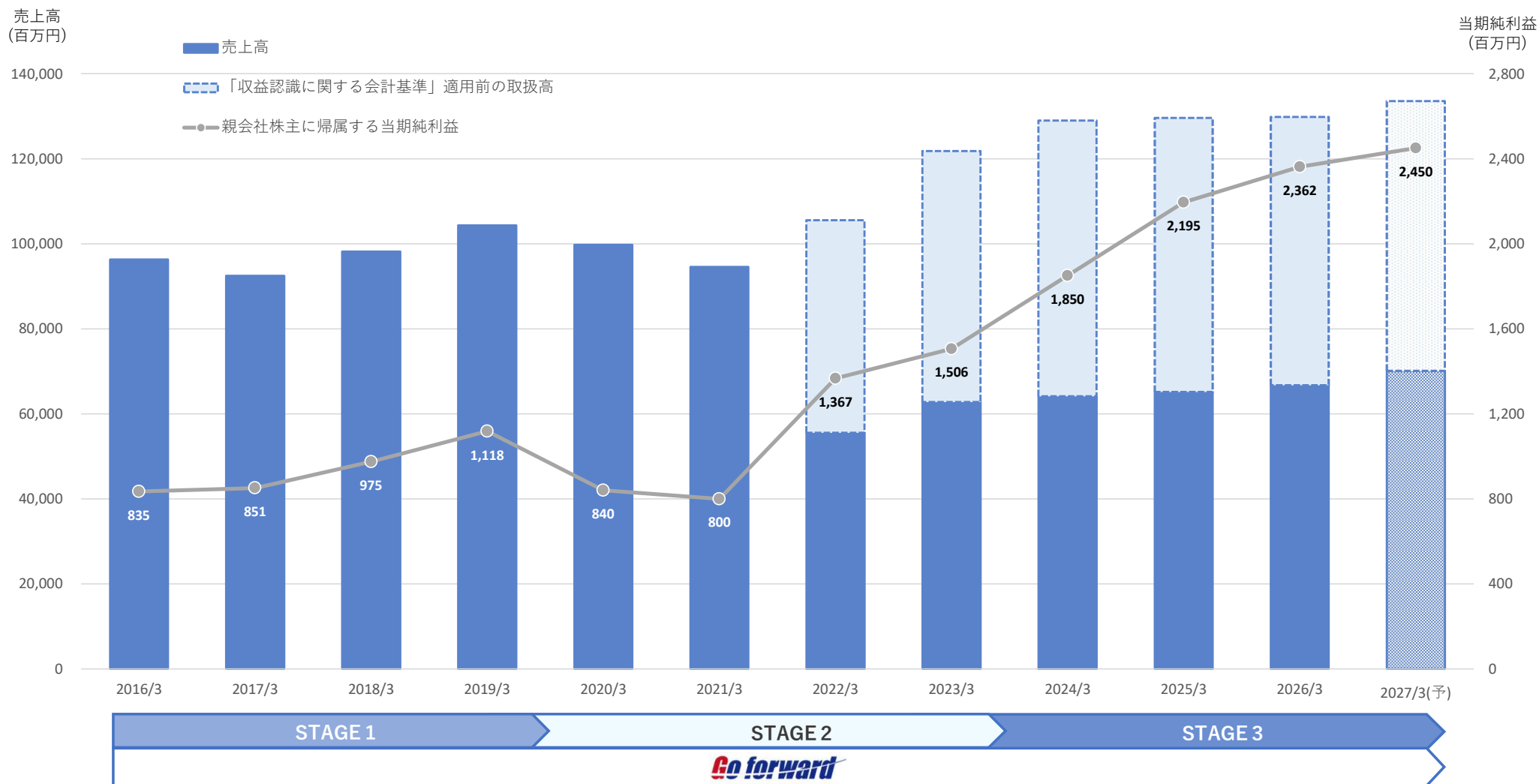
基本方針

新たな成長軌道をつくるために「変革」を果たす

財務目標

	2023年度 実績	2026年度 目標	投資枠 (STAGE3累計)	
連結当期純利益	18.5億円	24億円以上	基盤整備 + 成長投資	100億円
ROE	6.6%	8%以上		
配当性向	44.4%	40%以上		

業績推移



※ 22年3月期以降「収益認識に関する会計基準」を適用

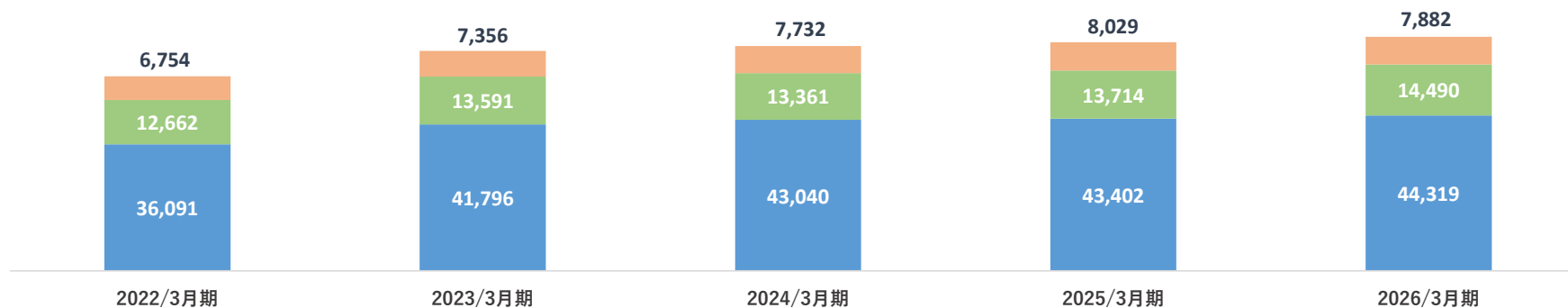
セグメント別業績推移



売上高

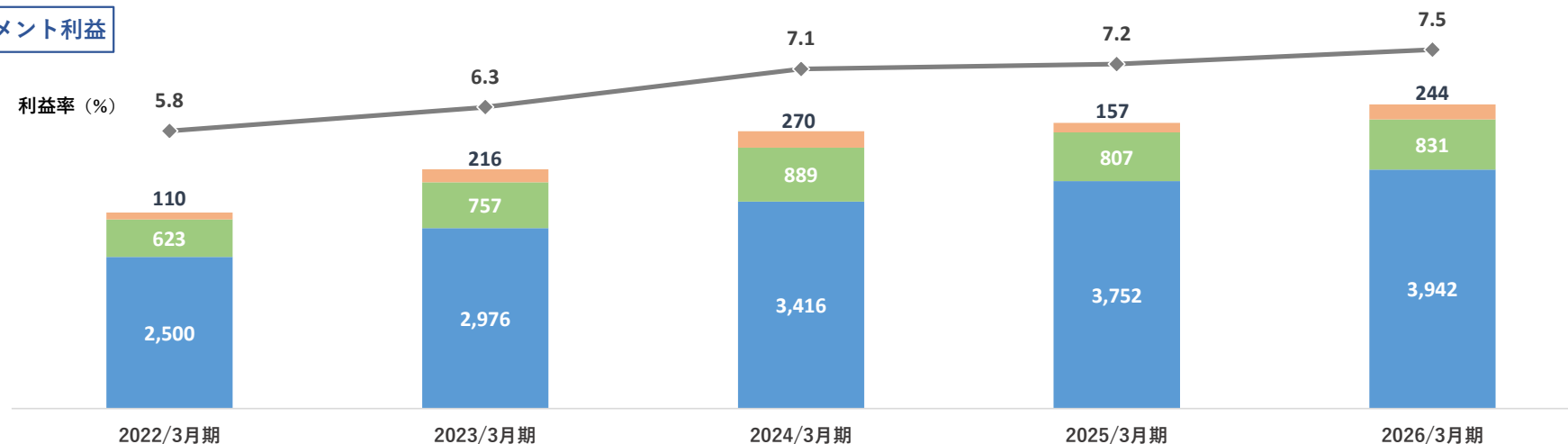
■ 化学品 ■ 機能材 ■ その他

(百万円)



セグメント利益

利益率 (%)



※ 2022/3月期より「収益認識に関する会計基準」を適用

免責事項

本資料の内、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定性及び今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。

 **ソーダニッカ株式会社**

